スモールミーティング「気候変動・調達リスクへの取り組み」

・開催日時　2021 年 9 月 21 日　13:00～14:00

・スピーカー　C"ESG"O　門田　隆司

主な Q&A

＜気候変動に関して＞

Q.　多くの日本企業で、気候変動や環境対策などの取り組みが進んでいるが、どのように感じているか

A.この　1　年ほどで気候変動の問題などが多くの企業に浸透し、対応がとられている。特に消費者である若い世代が強い関心を持っており、彼らの中には製品への環境対策のコスト転嫁も許容なども見受けられる。日本人は自然に感謝する気持ちや「三方よし」の考え方が根付いており、特に環境問題に関しては理解が進みやすい一方で、世界への発信力が弱く、日本の取り組みをアピールできていないことは大きな課題と感じている。当社も、発信力の課題を認識しており、欧州サステナブルチームと意見を交え、行動することで、グローバルな目線の共有や、発信強化を進めている。

Q.　環境ビジョンの Scope１＋２、Scope３の削減目標はどのように算出されたのか

（参考：Scope１＋２　総量 40%削減、Scope３　総量１８%削減）

A.CO_2の削減目標は、SBT(Science Based Targets　科学と整合した目標設定)に基づいて算出している。パリ協定に即して 1.5 度に目標シナリオが変更になったため、Scope１＋２は well below 2℃（2℃より十分に低い）に目標値を変更しているが、Scope３については当社の行使力やコミットメントの側面から、従前の目標値を残している。今後、1.5℃目標に合わせ変更を予定している。

Q. CO_2の削減による調達コスト上昇についてはどのように考えられているか

A.FY2020 は FY2016 と比べ CO_2を 19%削減しているが、技術開発などによってコストの上昇を吸収しており、調達コストも抑えられている。今後もコスト上昇は極力抑えたいと考えているが、ある程度のコスト増加は避けられず、市場、社会でそれはエシカルコストとして認めて頂きたいと考えている。一方で、Scope３については、2 次加工である当社の事業と比べ、1 次加工を担うサプライヤーの削減余地が小さいのは理解しており、将来的には一定のコスト上昇は許容せざるを得ないと考える。ただし、1　次産業と取組みを加速させることで、コストを低減させていく可能性も探っていく。

＜調達リスクに関して＞

Q.グリーバンスメカニズムの周知や、活用はどのように行っているのか

A.従来は、直接サプライヤーへの周知や、エンゲージメントにとどまっていたが、現在は、サプライヤーや　NGO　などと共に現地視察の実施や、衛星写真を用いたモニタリング結果をフィードバックするなどの取り組みを進めている。また、一次サプライヤーからの結果の報告を受けるだけではなく、客観的な検証を行って取り組み完了としている。

Q.ユニフジ社（不二製油と United Plantations による、サステナブルなパーム油加工の合弁会社）によって欧州ビジネスへどのような影響が生じ、一方で調達コストは上昇しているのか

A.ユニフジ社のスキームは、農園までを完全にトレースできる、サステナブルで高品質なパーム油の供給していることから、サプライヤーから高い評価を受けており、不二製油の欧州でのプレゼンスは高まっている。また、付加価値を有していることから、調達コストの上昇をカバーすることができている。

以上